

スポーツシティ福岡展

展示期間: 令和3年7月1日～8月1日

展示場所: 総合図書館2階文書資料室

1. はじめに

今日、福岡市においては、ラグビーワールドカップ 2019 や福岡国際マラソン選手権大会、FINA 世界水泳 2022 福岡大会の開催など国際的な大会が行われています。

また、プロ野球のソフトバンクホークス、サッカーのアビスパ福岡、バスケットボールのライジングゼファークオカ、ラグビーのコカ・コーラレッドスパークスやキューデンヴォルテクスが福岡市を本拠地として活躍し、一流のスポーツ選手の競技を身近に見ることが出来ます。

一方、昭和 62(1987)年から開催されている市民総合スポーツ大会では約 110 種の競技が行われ多くの人々が参加しています。公園等では、ランニングやウォーキングを楽しむ市民を見かけないことはなく、スポーツが市民生活へ浸透していることがうかがえます。

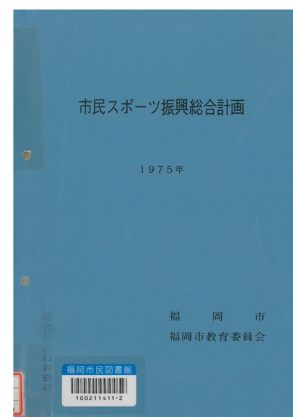
そこで、これまでの福岡市におけるスポーツ振興計画、大会誘致等について、1995 ユニバーシアード福岡大会や、福岡市へのオリンピック誘致などについて、当館所蔵の図書及び文書資料等から見てみることにしました。



2. スポーツ振興

昭和 50(1975)年、「スポーツ活動を生活の中に取り入れ実践し、市民相互の連帯感を深め、活力と喜びにあふれる市民生活の確保を目指して」福岡市市民スポーツ振興総合計画が策定されました。昭和 50 年から 16 年間の計画で、前期、中期、後期に分けた計画でした。

主な事業として、平成元 (1989)年、「みんなで走る、みんなでつくる、みんなで楽しむ」のキャッチフレーズのもと、ハーフマラソン、10キロ、5キロを走る福岡シティマラソンが始まりました。



(行政資料)

平成 3(1991)年、福岡市体育協会が財団法人化され、平成 6(1994)年には、市民スポーツの普及振興を図ることを目的として、スポーツ事業の実施と施設の管理運営を行う財団法人福岡市スポーツ振興事業団が設立されました。

平成 22(2010)年 2 月、“する”、“みる”、“支える”、を柱とした「福岡市スポーツ振興計画」が 10 年間を計画期間として策定され、同年4月、福岡市体育協会と福岡市スポーツ振興事業団が統合され、新たな体育協会としてスタートしました。

平成 24(2012)年 10 月からは公益財団法人へ移行し、名称も「福岡市スポーツ協会」になりました。

この経緯が分かる資料としては、体育協会の「体協 FUKUOKA」と run jump swim throw の頭文字をとって冊子名としたスポーツ振興事業団の情報誌「るじゃすと!」の 2 つの冊子がそれぞれ発行されていましたが、2つの団体が統合されたことにより、冊子名も「体協るじゃすと」なり、現在は「おっしょい福スポ」となっています。



(行政資料:逐次刊行物)

3. とびうめ国体、ユニバーシアード福岡大会

平成 2(1990)年、「ときめき 出会い みなぎる力」をスローガンとし、東平尾公園の博多の森陸上競技場をメイン会場として第 45 回国民体育大会(とびうめ国体)が開催されました。

とびうめ国体に引き続いて第 26 回全国身体障害者スポーツ大会(輝きのとびうめ国体)が開催されました。

また、学生のオリンピックともいわれるユニバーシアードが、平成 7(1995)年 8 月 23 日から 9 月 3 日まで、福岡市内と周辺市町の各施設で実施され、開会式・閉会式は福岡ドームで行われました。この大会は、各国の学生選手と市民の交流が図られた大会でもありました。



(写真:旗広場 ユニバーシアード資料)



(写真:開会式 ユニバーシアード資料)

ユニバーシアード福岡大会の最終日(9/3)、次のような「国際スポーツ都市宣言」を行いました。

1. 自然と共生し健康な心と体を育てよう
2. 生きがいのある暮らしをスポーツで育てよう
3. さわやかな友情をスポーツで育てよう
4. 活力あるまちをスポーツで育てよう
5. 国際交流の輪をスポーツで育てよう

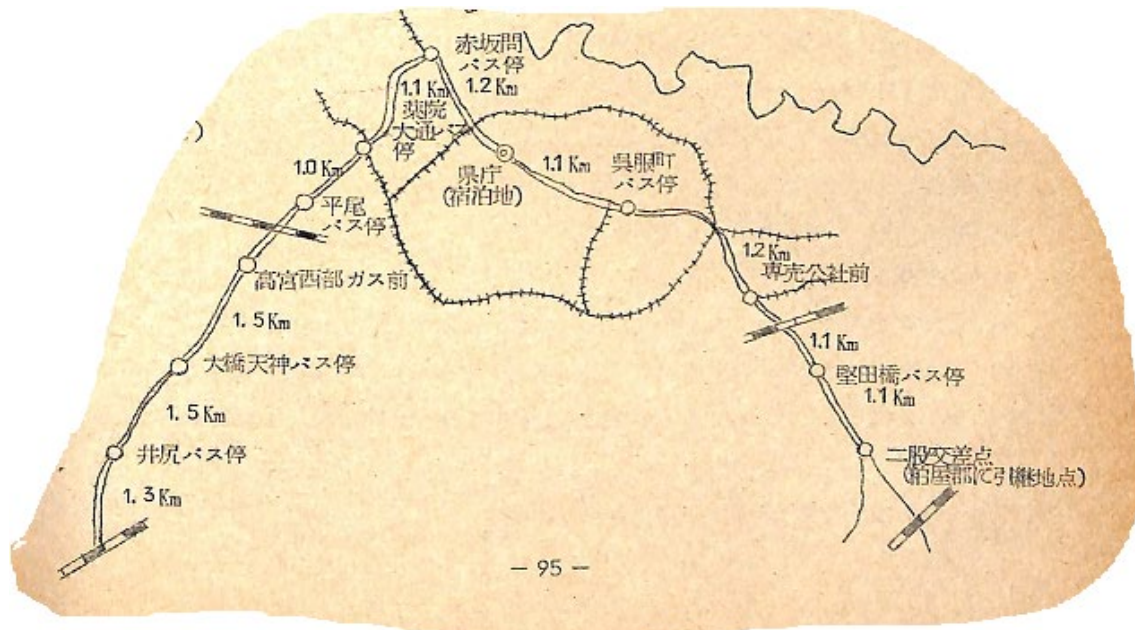
4. 東京オリンピック

昭和 39 年(1964 年)10 月 10 日晴天に恵まれ、8 万人の観衆を収容した国立競技場において、東京オリンピック開会式が行われました。

オリンピックの聖火は国内を4コースに分け東京までリレーされ、そのうちの1コース(九州・中国・近畿・北陸・信越・東京)が、天神にあった旧県庁舎前で聖火リレーされました。福岡市内は井尻～県庁～二股瀬交差点となっています。



(写真資料:39105 聖火リレー)



(行政資料:福岡市の体育 NO.3(39、40 年度) より抜粋)

5. 福岡市へのオリンピック・パラリンピック招致

ユニバーシアード福岡大会や世界水泳選手権など数々のスポーツ大会開催の実績を積み重ね、九州・沖縄サミット蔵相会合やアジア太平洋こども会議など国際コンベンションで世界中の人々との交流を深めた福岡市は、さらに「住みやすく、元気なまちづくり」と魅力と活力にあふれた福岡の未来へ向けての契機として、2016 年のオリンピック・パラリンピックを招致することにしました。

平成 17(2005)年 9 月 22 日、当時の山崎市長がオリンピック・パラリンピック開催地として立候補を表明し、同年 9 月の福岡市議会定例会において「第 31 回オリンピック競技大会の招致に関する決議案」が可決されました。

翌年の平成 18(2006)年 3 月 4 日には、福岡市と九州各界 330 団体が参加する「福岡・九州オリンピック招致委員会」が設立され、活発な誘致活動が行われました。

決議案第6号

第31回オリンピック競技大会の招致に関する決議案

上記の決議案を次のとおり会議規則第14条の規定により提出します。

平成17年9月30日

福岡市議会

議長 鈴木俊見様

提出者 福岡市議会議員

阿部 真之助

川上 晋平

森 英 廣

国分 徳彦

笠 康雄

おばた 久弥

川口 浩

石田 正明

黒子 秀男

森山 英樹

木村 幾久

高山 博光

第31回オリンピック競技大会の招致に関する決議

オリンピックは、スポーツを通じて世界の人々が相互理解と友好親善を深めるとともに、恒久的な世界平和の確立に大きく寄与する世界最大のスポーツ・文化の祭典である。

福岡市は、古来よりアジア大陸との交流の歴史を築き、独自の伝統と文化を育むとともに、豊かな自然と近代的で活力ある都市機能が共存する快適で住みやすい都市として発展してきた。

また、これまで、ユニバーシアード大会や世界水泳選手権大会などの国際スポーツ大会を成功に収めた豊富な実績と暖かい市民のホスピタリティを有し、オリンピックが目指す「環境と調和したオリンピック」を開催するにふさわしい都市の魅力と経緯を持っている。

新しい地方の時代において「アジアの交流拠点都市」のさらなる進展を目指す福岡市において、「従来型オリンピック」から脱却した「ヒューマンスケール都市でのオリンピック」という新たな理念を掲げて、九州各都市と連携して開催する意義は大きく、福岡市を始め九州の活力を一層飛躍させるとともに、子どもたちに夢と希望を与え、世界の平和に貢献するものである。

よって、福岡市議会は、市民と一体となった活動を展開することによって、2016年第31回オリンピック競技大会の本市招致を強く要望する。

以上、決議する。

平成 年 月 日

福岡市議会

(行政資料:平成17年第5回福岡市議会(定例会)会議録)

競技会場は中央ふ頭・那の津ふ頭(天神・マリンメッセ)を中心に、海の中道や百道・小戸にあり、選手村から10km以内のコンパクトな配置計画とし、予算面でもオリンピック関連整備にかかる福岡市負担額は970億円というもので、150万都市でもオリンピックが開催できるというモデル提案でもありました。

しかし、8月30日のIOC(日本オリンピック協会)の国内候補都市選定委員会の投票では、22対33で、もう一つの立候補地の東京都に決まりました。



(行政資料:「オリンピック・パラリンピックを福岡・九州へ」より抜粋)。